

令和7年度 札幌市立宮の森中学校 学校関係者評価委員会（令和8年3月5日開催）

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月12日
札幌市立宮の森中学校



1 本年度の経営方針

■令和7年度の重点

子どもを学校の真ん中に、そして学びを社会につなげる

■令和7年度の教育活動4つの焦点・キーワード

① 学びを変える

- ▷子どもが主役の多様な学び
- ▷ゴールが見える単元計画
- ▷社会や世界とつながる学びとホンモノの経験
- ▷次の学びにつながるホンモノの評価

② 誰一人取り残さない

- ▷学びのユニバーサルデザイン化
- ▷サポートルームの充実

③ 未来は自分たちで創る

- ▷総合的な学習を中核とした教科横断的な学習
- ▷学校・社会・世界を変える自治的な活動

④ 地域とともに

- ▷ホンモノのコミュニティスクール
- ▷部活動の地域展開



■目指す生徒像

世界は、自分たちの手で変えることができる。

主体性

- 自分自身の考えをもち、判断や行動の自己決定をする
- 自分自身で目標を設定し、自己実現に向けて行動する
- 過去の自分から目的や価値観を再確認し、未来の自分へつなげる

挑 戦

- 挑戦が自己の成長につながる可能性を秘めていることを理解する
- 多様な他者の立場で物事を考え、挑戦する他者の勇気を前向きに支える
- 建設的な行動や主張をもとに、周囲の課題をより良く解決する

つながり

- 自分の幸せや興味・関心、好奇心に素直に向き合い大切にする
- 感情をコントロールし、言葉による心の通った意思疎通をする
- 社会や信頼できる知識・情報と適切につながり、有効に活用する



■学校教育目標

自 立

共 生

未来志向

自ら立ち ともに生きることを学び 明日を志す生徒

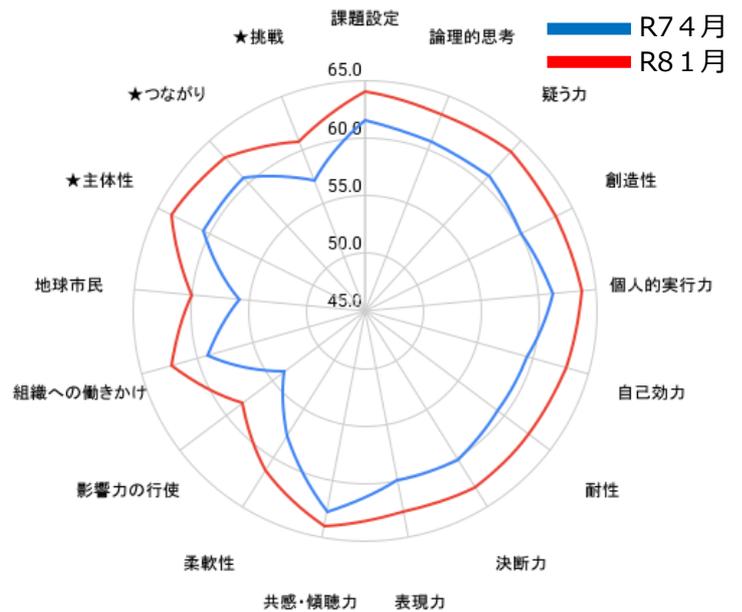
2 コンピテンシー測定値の変化

■コンピテンシーとは

コンピテンシーとは、知識や技能を実際の場面で活用するために必要な「行動特性（思考・行動の習慣）」のことです。

本校では、Ai GROW を用い、従来のテストでは測ることが難しい「創造性」や「論理的思考」といった非認知能力を定量化しています。生徒が自らの強みを客観的に把握し、変化の激しい社会を生き抜くための「汎用的な能力」を主体的に伸ばし、成長していくための指標として活用しています。

■生徒のコンピテンシー測定値の変化



分類	コンピテンシー	コンピテンシー詳細	R7 4月	R8 1月		
認知	課題設定	状況を的確に把握しながら「何をすべきか」「どうやって成し遂げるか」を考え出せる能力	61.5	63.8		
	論理的思考	道理に即って物事を深く考えることができ、複雑なことでも分かりやすく説明できる能力	60.7	62.8		
	疑う力	他者の意見をそのまま鵜呑みにすることなく、必要に応じて建設的な反論ができる能力	60.8	63.4		
	創造性	自分ならではの独自性に加えて、実現可能な生産性を伴ったアイデアを出すことのできる能力	60.0	62.9		
自己	個人的実行力	自らの意思によって行動して計画を進め、何事にも自ら進んで取り組むことのできる能力	61.2	63.5		
	自己効力	何らかの課題に直面しても、「自分ならできる」と自信を持って物事を進められる能力	59.5	62.9		
	耐性	困難な状況であっても、自分で決めたことは最後までしっかりとやり抜くことのできる能力	59.3	62.5		
	決断力	自分の考えと客観的な事実とを照らし合わせながら判断し、物事を決めることのできる能力	60.2	63.0		
他者	表現力	自分の考えや思いはもちろん、どんなことでも相手が理解しやすいように伝えられる能力	59.9	62.5		
	共感・傾聴力	相手の話を真剣に聴き、相手を深いレベルで理解し、相手の気持ちを尊重できる能力	62.7	63.9		
	柔軟性	変化への対応力とともに、その場その場で機転を利かせて行動を適宜修正できる能力	57.7	60.9		
	影響力の行使	他者に対して自分の考えや目的を伝えながら、ともに協働して物事を進めることのできる能力	53.7	57.5		
コミュニティ	組織への働きかけ	目標を達成するためにチームワークを高め、前向きな雰囲気を作り出すことのできる能力	59.1	61.7		
	地球市民	自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何が出来るか考えられる能力	55.9	59.3		
生徒像	主体性		つながり		挑戦	
	R7 4月	R8 1月	R7 4月	R8 1月	R7 4月	R8 1月
	60.6	63.3	60.6	62.7	57.1	60.4

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

1) 人間尊重の教育

■学校評価アンケート [生徒・保護者・教師] ※ () 内は前年度の数値

参考となる成果指標	生徒	保護者	教師
学校は、生徒たちが「自分が大切にされている」と実感できるような教育活動の充実に取り組んでいる。	89.9 (86.0)	87.6 (89.2)	100 (100)
学校は、生徒の自主的な活動を大切にした教育活動に取り組んでいる。	94.4 (91.8)	93.5 (92.4)	100 (100)
学校は、生徒たちに、「自分を取り巻く世界は自分が動くことでよりよく変わりうることを認識する機会」を作っている。	79.8 (70.4)	87.1 (79.8)	95.8 (100)

■札幌市共通指標アンケート

参考となる成果指標	R6 12月	R7 4月	R7 12月
自分にはよいところがある。	89.1	87.6	85.3
人のよいところを見付けようとしている。	93.0	93.8	94.7
自分が必要とされていると感じる。	76.3	74.5	74.7
人の役に立ててうれしいと感じることがある。	96.9	93.5	95.8
人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.7	94.2	94.3

生徒像	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【つながり】	生徒一人一人が「自分は大切にされている」と実感できるような学校づくりを進めているか。	A	生徒一人一人が「自分は大切にされている」と実感できるような学校づくりを目指し、「子どもを学校の真ん中に」を今年度の学校経営の重点に据え、「子どもが主役となる学び」、「学びのユニバーサルデザイン化」、「サポートルームの充実」「学校・社会・世界にアプローチする自主的な活動」、「子どもの声を聴く共創型コミュニティスクール」などの推進に挑戦した1年であった。「自分が大切にされていると実感できるような教育活動」に関するアンケートでは、89.9%の生徒から肯定的な回答が得られた。今後も、教職員が同僚性を発揮しながら、課題解決に向けて前向きに挑戦を続ける雰囲気を大切に、取組自体が形骸化しないよう、常にその意義を再確認し、生徒にとって価値ある教育活動の推進を目指す。	A	A
【主体性】	生徒の自主的な活動を大切にした教育活動に取り組んでいるか。	A	学級活動や生徒会活動、学校行事において、生徒たちの意思を尊重して委ねようとする雰囲気が醸成してきた。また、生徒会役員が目安箱の活用を通して、学校生活における問題点や改善点を集約し改善へつなげる流れも定着し、「自分たちの学校のことは自分たちで改善していく」という意識の強まりを感じる。一方で、 <u>目安箱への意見の中には、単に自己の欲求を満たすものも散見されるので、子どもたちの意識が「自分だけ」ではなく「学校全体・社会全体の幸せ」に向かうよう働きかけ、将来的には校内改善という視点から、広く社会や世界へと視野を広げ、行動を起こせる人材の育成を目指す。</u>	A	A
学校関係者評価委員による意見		・生徒自身も「自分が大切にされている」と実感できる教育活動の充実に対して評価が上がっている。その実感が積み重なっていくことで「自分にはよいところがある」の項目にも効果的に反映させられることを期待する。			

2) 小中一貫した教育・家庭や地域とともにある学校づくり

■学校評価アンケート [生徒・保護者・教師] ※ () 内は前年度の数値

参考となる成果指標	生徒	保護者	教師
学校は、近隣小学校・家庭・地域とつながりながら、子どもたちの育ちを支えている。	85.4 (73.5)	96.0 (96.0)	100 (100)

生徒像	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【つながり】	9年間を通した子どもの学びのつながりや、子ども理解の連続性のある教育活動となっているか。小中の教職員の連携・協働がなされているか。	B	小中合同実施の春の研究集会やパートナー部会、お互いの行事参観や研究大会への参加を通して、それぞれの学校で大切にしている教育観について、相互理解を深めることができた1年だった。参考となる成果指標においても、生徒の肯定的な回答が85.4%と昨年度から10%以上伸び、小中の教職員同士のつながりに加え、子どもたち同士のつながりの機会の創出が、肯定的な回答の増加につながった。 <u>次年度は、「小中一貫した教育グランドデザイン」の抜本的な見直し・改善を図り、それぞれの学校の魅力を生かしたり、学期毎に「学びの支援」に関わる情報交流の機会を設けることで、9年間の系統性・連続性のある教育の深化を目指す。</u>	A	A
【つながり】	家庭や地域とつながりながら、生徒の育ちを支えているか。	A	コミュニティスクールの導入元年。子どもの声を聴き、子どもにとって本当に必要なことは何かを一緒に考えるホンモノのコミュニティスクールを目指し、3回の学校運営協議会を開催した。生徒会役員をはじめ、多数の生徒たちも参加し、自分たちの言葉で生徒会活動や学校での学習について地域の方々に説明したり、地域の安心・安全について意見交流をすることができた。また、中学生が地域のお祭りやパートナー小学校のイベントにボランティアとして参加したり、地域の大人や卒業生が地域学校協働活動としてキャリア教育や出前授業に参加する取組も広がっている。 <u>今後も、学校が地域コミュニティの核となり、家庭や地域との共創体験を通して、未来に向けて進む希望を育めるような学校づくりを目指す。</u>	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・科学部による小学校フェスのボランティアや少年団と部活動との交流などでも、小中のつながりを感じる人が多い。 ・子どもたちの主体性が感じられる取組や機会がしっかりとあり、生徒たちの発信力にも感心している。 ・宮中らしく新しいことにどんどんチャレンジしてほしい。正解がないことなので、良くて悪くてもまずはやってみて進めていってよいと思う。 ・小中一貫した教育が、大人たちだけでなく、児童・生徒にも「つながり」を意識できるよう自治的な活動が工夫されて進めていただいていることに感謝している。 			

3) 学ぶ力の育成

■学校評価アンケート [生徒・保護者・教師] ※ () 内は前年度の数値

参考となる成果指標	生徒	保護者	教師
学校は、わかる・できる・楽しい授業づくりの充実に取り組んでいる。	93.3 (92.2)	86.1 (87.0)	100 (100)
学校は生徒が自ら考え、判断し、表現する学習活動の充実に取り組んでいる。	94.0 (91.1)	-	100 (96.3)
学校は、ユニット活動や異学年交流を通じ、認め合ったり、高めあったりする学習活動の充実に取り組んでいる。	96.2 (89.7)	92.5 (91.9)	100 (100)
学校は、学びの質を高めるため、ICT を効果的に活用した学習活動の充実に取り組んでいる。	94.8 (96.1)	89.6 (90.1)	100 (100)
学校は、学習評価の仕組みについて事前に説明したり、評価結果について分かりやすく説明したりしている。	94.0 (92.6)	87.1 (87.9)	100 (96.3)

■札幌市共通指標アンケート

参考となる成果指標	R6 12月	R7 4月	R7 12月
疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。	88.3	91.3	88.7
新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。	84.4	83.6	84.2
意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。	90.3	89.8	87.5
人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。	94.9	93.8	93.6
振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある。	80.9	80.4	78.1
振り返ったことを、次に生かそうとしている。	87.5	87.3	87.9
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	74.3	72.4	75.5

生徒像	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【主体性】	自ら疑問や課題をもち、主体的に考え、判断し、表現する学習活動の充実に取り組んでいるか。	B	「何を・どのように学ぶか」を自分で決める「自主学習の時間」の継続的な実践や、総合的な学習の時間でのPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)等の実践を通じ、学習に対する主体性が高まってきた。また、校内研修会でも、「主体的な学習・自律的な学習者の育成」をテーマとし、教師の学びを深めている。次年度は、 <u>日常の授業の中でも、生徒自身が学び方を選択できたり、失敗から調整方法を学べたりするような授業のあり方について、実践を積み重ねていくことで、生徒の自律的に学ぶ自信を育てていく。</u>	A	A
【つながり・挑戦】	ユニット活動や異学年交流を通じ、相互承認や相互啓発のある学習活動を行っているか。	A	各教科における継続的なユニット活動や異学年交流の実践の積み重ねを通して、人と学び合うスキルは学年が上がるごとに向上した。今年度は特に、単なる意見の交流ではなく、合意形成の場としてのユニット活動の充実に取り組み、生徒の間でも「対話による解決」への意識が高まった。次年度は、 <u>より質の高い合意形成(安易な妥協ではない合意)の基盤形成のために、各教科の課題探究的な学習や、生徒の自治的な活動の中で、「正解のない問い」を意図的に設定し、実践的スキルとしての定着を図る。また、教師自身も合意形成の高度なプロセスやTOK的アプローチ等の専門的なスキルを学ぶ機会を創出し、指導の質を高めていきたい。「意見の対立」を「人格の否定」ではなく「視点の違い」として捉えられる宮中生徒の育成を目指す。</u>	A	A

【つながり】	<p>学びの質を高めるため、ICT を効果的に活用した学習活動を行っているか。</p>	<p>A</p> <p>生成 AI 活用のパイロット校として、スクール AI を試験的かつ積極的に導入した。特に学習支援の面において、AI との対話を通じて自分の思考を整理したり、理解度に応じたヒントを得たりする活動を模索したことで、情報を多角的に分析する力が伸びた。また、日常生活の中では、Google クラブルームなどで個の気づきを集団に還元する活用方法は生徒たちの中で定着している。次年度は、<u>授業においても個々の深い洞察や分析結果がデジタル上で可視化され、クラス全体に還元されることで、集団の学びが加速したり、共有された情報をただ受け取るのではなく、それらを組み合わせて新たな価値を提案する「創造性」を磨く方法を探っていきたい。</u>また、<u>生成 AI やネット情報の活用が日常化する中で、「学習・研究のマナー教育」として、引用時の出典明記や情報の真偽を確かめる等の体系的な指導も整理し、推進していく。</u></p>	A	A
【主体性】	<p>学習評価の仕組みについて事前に説明したり、評価結果を丁寧に説明したりしているか。</p>	<p>A</p> <p>「単元目標（学習のゴール）の見える化」と「学習記録表の活用」で、自己の到達目標や現在地、挑戦や努力の対価としての成長が可視化し、実感できたことで、自分の学力の成長を人任せにせず、自分ごととして捉えたり、学習に対して前向きに粘り強く取り組む姿勢が伸びた。また、Ai GROW の導入により、学力のみならず、身につけた知識やスキルを生かす力（コンピテンシー）の重要性に対しても生徒の意識が向くようになってきた。次年度は、<u>生徒が「自分自身の成長・身につけた力」をより効果的に内省できるような振り返りシートの整備と、自己評価に対する教科担任のカウンセリングの充実を目指す。</u>また、<u>学校での学びと社会とのつながりをより一層大切にし、社会で生きて働く力の育成に努める。</u></p>	A	A
<p>学校関係者評価委員による意見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「対話による解決」は実はとても難しいことだと思う。それでも中学生の時期から対話による解決を目指す考えが定着できるなら、生徒たちが大人になった時の「解決する力」に期待できそうだ。 ・今までの学習方法や評価方法から、多様な生徒たちに対応できるように考えて進めていることはとても素晴らしいと思う。 ・生成 AI の活用など、先進的な教育に挑戦している姿が見える。 ・自己の学びや成長の変化を、自ら実感できる振り返りが大切だと考える。生成 AI の活用で非認知能力を定量化するという実践は大変効果的。生徒自身がどう上手く活用していくか、その効果を生徒自身が実感したときに、さらに必要感が高まるものと思う。 		

4) 豊かな心の育成

■学校評価アンケート〔生徒・保護者・教師〕※（ ）内は前年度の数値

参考となる成果指標	生徒	保護者	教師
生徒たちは、他者を尊重し、思いやる気持ちを大切にしながら学校生活を送っている。	96.3 (93.4)	95.5 (96.0)	91.7 (100)
学校は、地域の人や文化的な特色を生かしたり、自然に親しむことができる学習活動の充実に取り組んでいる。	89.9 (82.9)	90.0 (85.7)	95.8 (92.6)
学校は、生徒の不安や悩みに気付く意識を高めるなど、安心して生活できる環境づくりを行っている。	89.9 (85.6)	83.1 (84.8)	95.8 (100)

■札幌市共通指標アンケート

参考となる成果指標	R6 12月	R7 4月	R7 12月
自分にはよいところがある。	89.1	87.6	85.3
自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。	85.2	77.1	79.2
意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。	90.3	87.6	86.4
分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。	85.6	88.0	89.1
学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。	87.5	81.8	84.9
家の人や地域の人に認められたり、支えられたりしていると感じることがある。	84.8	90.2	89.8
自分の学びや成長に学校以外の様々な人々が関わっていると感じている。	87.2	88.0	87.9
先生方は、自分が安心して学習に取り組むことができるよう、支援をしてくれる。	90.7	93.8	94.0
先生や家族以外にも、カウンセラーや相談窓口など、必要なときに悩みを相談できる大人がいる。	70.0	74.2	74.7

生徒像	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【つながり】	認め合い、支え合い、高め合うつながりの醸成を図っているか。	A	各教科でのプレゼン発表や、レポートなどの掲示を通して、互いの成果を共有する機会を数多く設定している。生徒会活動においても、学年の枠を超えた交流の機会をもつ取組が、工夫を凝らしたアイデアで盛んに行われた。また、道徳の授業を、担任によるものから学年教師によるローテーションとし、学年全体で生徒の心を耕す仕組みの構築を図った。次年度は、 <u>小中一貫した教育のグランドデザインなどもふまえて学校独自の道徳重点的内容項目を設定し、家庭や地域、パートナー校との連携も図っていく。</u>	A	A
【つながり】	地域の人や文化的な特色を生かしたり、自然に親しむことができる学習活動を行っているか。	A	地域学校協働活動の枠組みを活用するなどし、地域の多様な方々の出前授業が実現した。参考となる評価指標においても、89.9%の生徒から肯定的な回答が得られ、自分自身の成長と地域の人や文化とのつながりを実感できる生徒が増えている。次年度も、 <u>より豊かな感性を育むために、宮の森地区の人的・地理的・文化的魅力を最大限に生かした教育活動を推進していく。</u>	A	A
【つながり】	いじめの防止や、子どもの不安や悩みに気付く意識を高めるなど、安心して生活できる環境づくりを行っているか。	A	いじめ対策委員会と不登校対策委員会を月毎に設定し、いじめの未然防止・早期発見・対処、サポートルームや相談支援パートナーの効果的な運用などの不登校支援の体制整備に努めた。次年度は、 <u>年に3回設定している教育相談期間のあり方を再度見直す。また、Ai GROW（気質・コンピテンシー測定ツール）の効果的な活用を通して、その子の強みや魅力など、学力以外の評価軸でも、教師や周りの大人たちが子どもと向き合える機会を増やす。</u>	A	A

学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン発表の質が年々高まっている。発表者はもちろん、聞く側の反応や雰囲気づくりなどのスキルも向上していると感じた。 ・生徒アンケートの経年変化から、周りの人からの支援体制を実感していることが分かる。唯一、自己肯定感を高める取組がキーになると考える。 ・地域とのつながりという点では、新聞やニュースを通じて感じることを話し合ったり、家庭でも子どもたちの周辺で起きていることを話し合い、様々な出来事や感情を交流することが大切。
----------------	---

5) 健やかな体の育成

■学校評価アンケート [生徒・保護者・教師] ※ () 内は前年度の数値

参考となる成果指標	生徒	保護者	教師
学校は、生徒が運動に親しむための環境づくりや指導の工夫に取り組んでいる。	88.8 (85.2)	82.6 (79.4)	79.2 (96.3)
学校は、生徒が自分の健康(心身)を意識し、保持増進につとめようとする力の育成に取り組んでいる。	92.5 (89.9)	84.6 (82.5)	83.3 (100)

■札幌市共通指標アンケート

参考となる成果指標	R6 12月	R7 4月	R7 12月
健康診断の結果等から、自分の体の成長や健康状態を知っている。	89.9	91.6	88.7
健康のために、自分には何が必要かを考えて生活しようとしている。	86.4	89.8	85.3
文化、スポーツについて、参加できる環境がある。	90.3	92.0	90.6

生徒像	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【主体性】	生徒が運動に親しむための環境づくりや指導の工夫に取り組んでいるか。	A	ARを活用した室内運動プラットフォーム DIDIM の試験導入やプロの講師によるダンス授業、グループダンス発表会を通して、運動の楽しさに触れられる課題探究的な体育学習を推進することができた。次年度は、 <u>陸上競技会のあり方を見直すなどし、より主体的に運動に親しむことのできる生徒の育成を目指す。</u>	A	A
【挑戦】	生徒が積極的に心身の健康の保持増進を図る資質・能力の育成に取り組んでいるか。	A	保健室来室時、自分のからだの状態を自分で分析し、相手に伝えるためのツールとして「保健室来室カード」を活用することで、来室時の自分の辛さを数値化し、自分事として捉え、言語化できる力の育成を図った。また、改善に向けての生活習慣や行動変容についても、問診を通して一緒に考えるよう努めた。しかし、 <u>理解はしていても具体的な行動につながらない生徒や、自分のからだの状態を自分事として捉えられず、判断を他人任せにしがちな生徒も少なくない。</u> 今後も、保健室来室の機会や健康相談、保健体育科との連携を通して、一人一人に寄り添った健康問題への支援を充実させていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・健康、体力増強のため、学校や家庭においても良い習慣を大切にしてほしい。 ・保健室の来室については、個人の内面や悩みなどを把握する大切な機会と考える。中学生という発達段階からも、相談できる環境づくりはこれからも重要。 ・学校だけでなく、家庭でのサポートも含めて、生きることに希望をもてるように、全ての子どもに幸せになってもらえる教育に期待している。 			

6) 子どもの発達への支援・信頼される学校の創造・教科等の枠を越えた教育

■学校評価アンケート [生徒・保護者・教師] ※ () 内は前年度の数値

参考となる成果指標	生徒	保護者	教師
学校は、生徒一人一人にあった学習支援を充実させている。	86.1 (82.1)	72.6 (68.6)	91.7 (96.3)
学校は、校舎内の清掃や整頓がよくなされ、災害や交通に対する安全意識を高める指導の工夫に取り組んでいる。	94.4 (90.3)	96.5 (92.4)	91.7 (100)
学校は、生徒の興味・関心を理解し、将来の生き方や働き方について考える進路探究学習の充実に取り組んでいる。	95.9 (90.3)	84.1 (80.7)	100 (92.6)
学校は、生徒の作品やレポートなどを展示したり、課題探究の成果などを表現する場や機会を提供している。	96.3 (96.1)	92.5 (95.1)	100 (100)

■札幌市共通指標アンケート

参考となる成果指標	R6 12月	R7 4月	R7 12月
先生方は、自分が安心して学習に取り組むことができるよう、支援をしてくれる。	90.7	93.8	94.0
自分が学ぶ場所は、ケガをししたり事故が起きたりしないよう、安全が守られている。	91.4	92.0	92.1

生徒像	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
【つながり】	特別な配慮を要する生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育となっているか。	B	学びの支援委員会を月毎開催とし、生徒一人一人の状態等に応じた指導方法の工夫を、組織的かつ計画的に行うことができるよう努めた。また、学力の優劣や発達障害の有無にかかわらず、すべての子どもが楽しく・わかり・できるよう、工夫・配慮された授業（授業のユニバーサルデザイン）をテーマに校内研修会を実施したり、通常の学級と特別支援学級の教員が授業を持ち合うなどして行う「交換授業」の取組も進めた。次年度は、 <u>サポートファイルのより具体的・実践的な活用やチームティーチングのより効果的な活用方法を探る。</u>	A	A
【主体性】	校舎内の清掃や整頓がよくなされ、災害や交通に対する安全意識を高める指導の工夫に取り組んでいるか。	A	学校運営協議会では、「地域の安心・安全」をテーマに、生徒と地域の大人が雪、街頭、熊などについて話し合った。校内の衛生・環境整備については、用務員のきめ細かな清掃に加え、保体委員会による清掃強化日の設定など、学校全体として校内の美化・衛生を保とうとする意識は高い。今後も、「 <u>安心・安全な地域のあり方</u> 」について、 <u>子どもの声を聴きながら、家庭や地域と一体となって考えていくことで、地域の一員であるという当事者意識と主体性を育てていく。</u>	A	A
【主体性】	自分の興味・関心を理解し、将来の生き方や働き方について考える進路探究学習の充実を図っているか。	A	進路学活における「自己認識ワークシート」、総合的な学習の時間における「キャリア教育」や、「自主学習の時間」の継続的な取組により、自分の興味・関心を理解しようとしていたり、大切にしようとする生徒が増えている。次年度は、 <u>学校行事や総合的な学習の時間の取組の成果をより効果的に振り返ることができるよう、AiGROWのコンピテンシー測定結果とキャリアパスポートとの紐付けを図る。</u>	A	A
学校関係者評価委員による意見		・個に応じた指導や学習方法の自己選択など、今後も一人一人を大切にしたい学校づくりがパートナー校として連携していけるとよい。			